巻頭エッセイ

私の英語人生
――3度のターニング・ポイント

柏野健次

私たちの時代の英語教育は中学校から始まった。小学生の頃から言葉に興味のあった私は，英語に容易に溶け込むことができた。1年生の教科書は *Jack and Betty* で，まだイギリス英語が中心だった。3年間で習った先生の中では，I先生の授業が印象に残っている。厳しいが，大変熱心な先生だった。高校に入学すると，学習する単語の数が急に増え，初めて英和辞典を買った。三省堂の『クラウン英和辞典』である。高校では，T先生とK先生が懐かしく思い出される。2人からは積極性と英語のものの考え方を学んだ。高校の3年間で，英語の授業が待ち遠しいと思うほど，私は英語が好きになっていった。

大学進学時には，文学ではなく英語そのものを勉強したかったので，外国語大学を選んだ。当時は「英語学」という分野があるのをまだ知らなかった。

神戸市外国語大学（外国語学部 英米学科）に入学し，1年生の時に小西友七先生の文法の授業を受けたが，受験英語の知識を根底から覆される思いがした。

2年生の終わりにゼミ選択の時期になった時，私は英語学のO先生のゼミを希望した。小西先生のゼミは厳しいと聞いていたので，恐れをなして敬遠したのである。ところが，ある日，O先生から自宅に電話があり，「急に他大学に転出することになったので君のことは小西先生に頼んでおいた」と言われた。これが第1のターニング・ポイントである。

4年生になり，卒業後は高校の英語教師になるつもりだったので，その年の6月に教育実習に出かけた。ところが，実習が始まった3日目に倒れてしまい，入院を余儀なくされた。2週間後には退院できたが，教員免許は取れなくなってしまった。そこで，研究者になるためではなく，教員免許取得のために神戸外大大学院に進学した。これが第2のターニング・ポイントである。

大学院入学当時は変形生成文法の最盛期だったが，私はどうしても馴染めず，それを避けるようにソシュールの『一般言語学講義』や三浦つとむの『日本語はどういう言語か』などの言語論の本を読んでいた。

そして，時が経ち大学院修了式の日となった。式の後，修了生の何人かが小西先生の自宅に集められ，その席で後に『英語基本動詞辞典』（研究社）となる辞典の構想が初めて明かされた。私たちは協力を要請され，全員がこれを引き受けた。

当時の私は文法指向で，英語の実態には無関心であった。事実，アスペクトに関する修士論文には実例は1例も出てこない。しかし，辞典作成の必要上，ペーパーバックを読み始めて学校英語と実際の英語との間にあるギャップに初めて気づいた。これがきっかけとなり，私の興味は文法から語法へと移行していくことになる。これが第3のターニング・ポイントである。

この辞典は，5年で完成し，その後，『英語基本形容詞・副詞辞典』『英語基本名詞辞典』（ともに研究社），『現代英語語法辞典』（三省堂）と延べ30年に渡って私は小西先生の下で辞典作りに没頭することになる。

この仕事を通じて私の語法観が確立し，そのお蔭で単独の著書を何冊か上梓することができた。ここ10年に限ると，『英語語法レファレンス』『英語語法詳解』（ともに三省堂），『英語語法ライブラリ』（開拓社）が世に出た。現在も，大修館書店の英和辞典や総合英語を語法面からサポートする仕事が継続中である。

（かしの　けんじ・大阪樟蔭女子大学名誉教授）

特別記事①

新学習指導要領でこれからの英語教育はどう変わるか

村野井 仁

次の学習指導要領はなかなかおもしろそうだ。とても大きく変わるので，それに合わせていろいろ変えていくのはもちろん大変だけれど，生徒を一生支える英語力を育てようと日々頑張っている先生達にとっては背中を押してくれるようなポイントがいくつもちりばめられている。ワクワクするようなところすらある。高等学校の学習指導要領解説外国語編は現時点でまだ公示されていないが，高等学校学習指導要領案（平成30年２月）と学習指導要領改定に関する中教審答申（平成28年12月），中学校学習指導要領（平成29年３月）及び外国語編解説（平成29年７月）に基づいて，何がどうおもしろそうなのかまとめてみたい。

■小・中・高一貫した領域毎の英語到達目標

今回の学習指導要領改定において，英語教育全体に対して最も大きなインパクトをもたらすのは何といっても小学校５年生・６年生での英語教科化と小学校３年生からの外国語活動開始であろう。小学校でのこのとてつもない変化は当然のことながら中高における英語教育も大きく変えることになる。高校入学以前に学ぶ内容が多くなり，英語学習時間もこれまでより４年長くなるわけであるから，その影響（効果）は確実に高校英語教育に及ぶと考えなければならない（例えば，仮定法過去は中学で学ぶ文法事項となる）。

小学校中学年から高等学校卒業時までの英語教育を体系的に捉えることができるように小・中・高一貫した英語教育の到達目標が今回の学習指導要領改訂に合わせて文部科学省から示されている（中央教育審議会答申2016.12.21参考資料及び小学校外国語説明会2017.9.21配布資料等）。この到達目標の特徴は，聞くこと，話すこと（やり取り・発表），読むこと，書くことの５領域に関して「生きて働く」力を育てることをめざしていることとそれがCAN-DOの形で示されていることである。

このような形で小・中・高一貫の英語到達目標が共有されることは，２つの点で意義深い。まず，英語で身につけるのは単なる知識（語彙知識・文法知識）ではなく，社会において問題解決のために使うことのできる知識・技能だということである。「よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力」の一部として英語力をとらえることが求められるのである。入試問題が解ければいい，長文が読めればいいという偏った知識やスキルの蓄積をめざすのではなく，英語が聞けて，話せて，読めて，書ける運用能力の育成をめざすことが英語教師の目標となる。これまでにも生徒の総合的な英語力を伸ばすために授業を工夫し，労力と時間をかけて一生褪せることのない英語力を育ててきた英語教師は言うまでもなく数多くいる。これからはそのような力を持った英語教師が主流となるのである。「わかる」から「できる」に英語教育の目標が今度こそ変わることが期待される。

小・中・高一貫した英語到達目標設定のもう１つの意義は，小・中間そして中・高間における接続がこれまでより意識されやすくなることである。隣接する校種でどんな英語教育が行われているのかにもっと興味・関心を持ち，円滑な接続に対してお互いがもっと責任を持つ必要があると筆者は感じている。小・中・高でつながる英語到達目標をそれぞれの学校で英語教育に携わる教師が

共有することによって児童生徒に切れ目や過度な重複のない適切な英語指導を提供することが可能になる。

■学習指導要領における外国語及び外国語活動の「見方・考え方」

新学習指導要領では，各教科において物事を捉える視点や考え方を「見方・考え方」として明確にすることが求められている。各教科を学ぶ本質的な意義の中核をなすものであり，教科の学習と社会をつなぐもの，「深い学び」の鍵となるものとされている。

この点についても筆者はとても重要であると感じている。なぜならこのことが英語という教科で私たちが何を目指すべきなのかを考える機会を与えてくれるからである。生徒達に単に単語や文法を覚えさせ，英語を使えるようにすればいいということではないという当たり前のことについて，もう一度立ち止まって考えることが求められていると捉えたい。

中学校学習指導要領解説外国語編は「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を「外国語で表現し伝え合うため，外国語やその背景にある文化を，社会や世界，他者との関わりに着目して捉え，コミュニケーションを行う目的や場面，状況に応じて，情報を整理しながら考えなどを形成し，再構築すること（p.10）」と説明している。

社会や世界との関わりに着目してことばや文化を捉えることは，社会に生きる私たちが直面している問題やそれらの問題を乗り越えようとする人々の努力や叡智について英語を通して深く学ぶことである。教科書の題材を基にして，さまざまな事柄に対する生徒達の視野を広げさせ，生徒達が深く考え判断する機会を作ってきた教師にとって，「見方・考え方」について考えることは，そのような指導が英語という教科にとり根本的に大切なことであることを再確認する後押しとなる。

「他者との関わり」も重要なポイントである。「英語話者」でもなく，「外国人」でもなく，「他者」であるのも興味深い。相手のことを考え，対話を進めることができるしなやかさ，寛容性を育てることをめざしていると捉えたい。他者との違いを尊重しながらなんとか対話を重ね，一緒に生きていけるような柔軟な見方・考え方を育てることが，英語という教科の本質なのではないだろうか。

「情報を整理しながら考えなどを形成し，再構築すること」も外国語能力を支える大切な視点である。情報を鵜呑みにせず，主体的かつ批判的に精査し，情報に基づいて考えを深め，判断し，それを他者との対話の中で生かし，さらに深いものにしていく姿勢はこれからの社会で生き抜くために極めて重要なものとなる。

■主体的・対話的で深い学び

いわゆるアクティブ・ラーニングの推進のために今回の学習指導要領改訂においてキーワードとして使われているのが「主体的・対話的で深い学び」である。もちろんこれは新しい概念ではない。外国語教育において学習者の自律性を重視し，協働的な活動を多用することで学びを深めていくことはずいぶん前から多くの外国語教師が試みてきていることである。「主体的・対話的で深い学び」というキーワードが示されたことによって，自律的学習，協働学習，アクティブ・ラーニングなどこれまでばらばらに検討されてきたものが集約されて，議論しやすくなったと考えることができる。

生徒の見方・考え方までも変えうる深い学びを授業の中で実現していく方法には様々なものがありうると思われるが，プロジェクトを基盤とした英語学習が「主体的・対話的で深い学び」を展開する１つの枠組みになると筆者は考えている。例えば，LGBTIQ に関する理解を深め，多様な人々が暮らしやすくなる社会を実現するためのプロジェクトを計画・実行することを高校英語科目のある単元の最終的なねらいとする。そのために

は，まず，理解を深めるために現状に関する情報を動画や文献など様々な資料から得なければならない。情報を基に現状を変えるための方策を協働的に考え，実行可能なプロジェクトを創造する。何か意味のあるものを創造することを最終目標とした学びのプロセスを通して，深い学びが主体的・対話的に促されると期待することができる。

現行のコミュニケーション英語や英語表現の教科書にもこのようなプロジェクトを促している教科書は多数あるが，単元最後の「おまけ」のような扱いになっていることが多い。「主体的・対話的で深い学び」を真剣にめざすためには，プロジェクトを単元のゴールとして設定し，本文や語彙・文法はそこに至るために必要なパーツとして扱うような教科書を作ることも可能であろう。生徒の見方・考え方を育てるような深いテーマを内容としてプロジェクト型の内容言語統合型学習（CLIL／content and language integrated learning）ができる教科書を生み出すこともできる。教科書編集に携わる者の一人としては，ワクワクするようなおもしろさである。

■外国語の目標

新学習指導要領では，「生きる力」としての資質・能力が明確化され，その資質・能力として，「知識・技能」，「思考力・判断力・表現力等」及び「学びに向かう力・人間性等」３つが各教科の目標に組み込まれる。高等学校学習指導要領案では，外国語科の目標は以下のように示されている。

第１款　目標　外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ，外国語による聞くこと，読むこと，話すこと，書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して，情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1)　外国語の音声や語彙，表現，文法，言語の働きなどの理解を深めるとともに，これらの知識を，聞くこと，読むこと，話すこと，書くことによる実際のコミュニケーションにおいて，目的や場面，状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。**（知識・技能）**

(2)　コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，日常的な話題や社会的な話題について，外国語で情報や考えなどの概要や要点，詳細，話し手や書き手の意図などを的確に理解したり，これらを活用して適切に表現し合ったり伝え合ったりすることができる力を養う。**（思考力・判断力・表現力等）**

(3)　外国語の背景にある文化に対する理解を深め，聞き手，読み手，話し手，書き手に配慮しながら，主体的，自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。**（学びに向かう力・人間性等）**

現行学習指導要領の外国語の目標とは目標の立て方が大きく異なっていることには正直戸惑いを感じざるを得ない。観点別学習状況の評価をどのように行うのか，５つの領域の評価を３つの柱を用いてどのように行うべきなのかなど，目標準拠評価を行う上で整理し，解決すべき課題は数多くある。新学習指導要領では全教科共通で資質・能力の３つの柱によって教科の目標及び内容が定められることになったと言われても，これまで作り上げてきた評価の土台を大きく変えることへの不安は大きい。

目標とそれに準拠すべき評価に関して不明な点は多いものの，新学習指導要領が示す目標は英語教育において児童生徒に身につけてほしい幅広い知識・技能・姿勢を包摂するものとなっていることに注目したい。他者への配慮・寛容さ，文化の多様性の尊重，平和・国際貢献の精神など重要な概念が今回の学習指導要領外国語編には含まれている。さあ，どんな授業を展開してやろうかとワクワクしているのは筆者だけではないと思う。

（むらのい　ひとし・東北学院大学文学部教授）

特別記事②

大学入試改革の行方

――資格・検定試験が高校・大学に与える影響

秦野進一

いよいよ今年４月に入学する高校１年生が受験期を迎える平成32年度よりセンター試験に代わる大学入学共通テストが始まり，また英語の資格・検定試験の本格的な利用も始まる。本稿では主に資格・検定試験の利用がどのように高校と（主として国立）大学に影響を与えるか考えてみたい。

■資格・検定試験の利用方法

文部科学省が「大学入学共通テスト実施方針策定に当たっての考え方」（H.29.7.13）の中で例として挙げている資格・検定試験の利用方法は，①出願資格，②試験免除（みなし得点），③得点加算，④総合判定の一要素の４つである。この４つの方法について考えられるメリット，デメリットを以下に簡単に整理してみた。（○メリット ●デメリット）

①出願資格（一定基準以上のスコア保持者に出願資格を与える方法）

○受験生は１度目の資格・検定試験で基準をクリアすれば２度目を受験しなくて済む

○わかりやすい。大学にとって入選作業が簡単

●高い基準に設定すると出願できない受験生が出てしまう

●資格・検定試験における英語の学力差が入学者選抜に反映されない

②試験免除・みなし得点（スコアを別の試験の満点，あるいは一定の得点とみなす方法）

○いいスコアを持っていれば一定の得点が保障されるので受験生の心理的負担が軽減される

●よりよいスコアを得るため資格・検定試験を２回受験する受験生が増えて競争が過熱する

●資格・検定試験の受験機会に恵まれない受験生には２回の受験は負担が大きい

●加算の対象となる試験（共通テストの英語の試験）が実施されている期間のみ利用可能

③得点加算（一定基準以上のスコア保持者に別の試験の得点の加点を行う方法）

○いいスコアを持っている受験生にとってアドバンテージとなる

●よりよいスコアを得るため資格・検定試験を２回受験する受験生が増えて競争が過熱する

●資格・検定試験の受験機会に恵まれない受験生には２回の受験は負担が大きい

●加算の対象となる試験（共通テストの英語の試験）が実施されている期間のみ利用可能

④総合判定の一要素

○●資格・検定試験のスコアが持つ入学者選抜への影響力が小さくなる

●資格・検定試験のスコアがどのように活用されているのか受験生にわかりにくい

これ以外にも上記の方法をいくつか組み合わせる方法も考えられる。また各資格・検定試験のスコアを一律に得点化して入学者選抜に利用すれば異なった資格・検定試験の結果が数値化されるので入学者選抜の資料としては使いやすいが，以下に述べるような問題点がある。

■資格・検定試験実施に関わる問題点

資格・検定試験の受験機会には地域的，経済的格差があり，また異なった目的で開発・実施された別々の試験の得点を段階別評価で入学選抜に使うことが果たして妥当なのかという疑問点もしば

しば指摘されている。

現在，全国で50万人以上が受験するセンター試験でさえ，受験会場が遠く，公共交通機関が十分に整っていない地域では高校でバスをチャーターして生徒を会場まで送ったり，また日帰りでの往復が難しい場合には宿舎を予約して教員が引率していくなどが行われている。こういった地域では資格・検定試験の受験のためにも同様の，あるいはそれ以上の対応が必要になり，労力だけでなく，費用負担もばかにならない。自治体や高校・大学が協力して，地元の高校や大学を会場としての団体受験の機会を増やすなどの方法も検討すべきであると考える。２点目の問題点だが，大学入試センターが資格・検定試験の実施主体に求める要件として学習指導要領との整合性が図られていることをあげているので，高校の授業とあまりにかけ離れた内容の試験が認定されるとは考えにくい。しかし異なった目的で開発・実施された試験なので，素材文や試験内容，形式などは様々である。逆に言えばそのように多種多様な試験だからこそ，個々の得点ではなく段階別評価での扱いが望ましいとも考えられる。留学希望者の英語力を計る試験の94点と6.5点，それに日本の大学入学希望者の英語力を計る試験の1250点を比較して入学選抜の資料として使うという発想は相当強引なことである。資格・検定試験のスコアは，受験生が最低限の４技能型の英語力があることを証明するエビデンスとしてのみ利用する程度の位置づけが適しているのではないだろうか。

■受験生の志望校選定プロセスへの影響

以下にこの先，実際には起きてほしくない最悪のシナリオを紹介したい。

Ａ大学では，数年間様子を見る予定で資格・検定試験の低めのスコア（例えば英検準２級程度）を出願資格として利用することにした。一方Ｂ大学とＣ大学では資格・検定試験の成績を重視してＢ大学では英検２級相当以上のスコアを持っている受験生にはスコアに応じてみなし得点を与えることにし，Ｃ大学では英検準１級相当以上のスコアを持っている受験生にスコアに応じて加点することにした。さてここにＡ大学，Ｂ大学，Ｃ大学のどこかに出願しようと迷っている受験生たちがいるとする。彼らの中で英検準１級以上のスコアを持っている受験生はＢ大学かＣ大学に出願する確率が高くなる。Ａ大学では彼らの持っている準１級（以上）というスコアがアドバンテージにならないが，Ｂ大学，Ｃ大学では評価されるからである。そして同様の理由で２級を持っている受験生の多くがＢ大学を志望することになる。英検準２級相当までのスコアしか取れなかった受験生はＡ大学を志望する確率が高くなる。彼らの持っている低いスコアが不利にならず，スコア上位者と対等の条件で入試に臨めるからである。その結果，Ａ大学にはスコアの低い受験生が集まり，高い受験生はＢ大学，Ｃ大学に集まることになる。また模試の成績が不安定でセンター試験本番でどのくらいの点がとれるか不安に思っている受験生は，みなし得点が保証されるＢ大学に多く出願する。Ｃ大学の加点に魅力を感じても，当日失敗して加点分を上回る失点をする可能性もあるからである。他の大学の様子を見ていて最後に利用方式を決定したＤ大学が登場し，英検２級相当以上に与えるみなし得点を他の大学より少し高めに設定すると多くの受験生がＤ大学に流れる結果となった。

このような大学間の競争も志望校決定のプロセスも決して望ましいものではない。もちろん資格・検定試験の扱い方に影響されずに自分の学びたいことを学べることを優先して第１志望校を決める受験生もたくさんいることだろう。しかしいくつかの志望校で迷っている受験生や，家庭の事情等でどうしても現役で合格しなくてはならない状況にある受験生にとって資格・検定試験の扱い方は非常に重要な要素となりうるのである。

■国立大学協会の基本方針

「平成32年度以降の国立大学の入学者選抜制度－国立大学協会の基本方針－」(H.29.11.10)では，資格・検定試験を「一般選抜の全受験生に

課すとともに，平成35年度までは，センターの新テストにおいて実施される英語試験を併せて課すこととし，それらの結果を入学者選抜に活用する。」とし，国立大として一致して両方の試験を入学者選抜に使う姿勢を明確にした。各大学がばらばらな対応を取り始めてしまったら受験生や高校に混乱を招き，また後から制約を設けることも難しくなるので国立大学として初めから足並みをそろえようという判断であろう。また英語の資格・検定試験及び記述式問題（国語・数学）の結果（段階別成績表示）の具体的な活用方法については，「受験生に対する配慮の観点から，国立大学共通のガイドラインを別に定める。」とし，利用の仕方の指針を年度内に示すことにしている（本原稿執筆時は未発表）。「併せて課す」というのがどのようなやり方まで許容するものなのかによっては各大学の利用方法の選択の余地はまだ多くある。国大協ではどの程度利用方法を統一するのかについても議論するようなので，各大学ではその結果を待って本格的な検討を始めることになるであろう。国大協の方針は法的な拘束力を持つものではないが，実施にあたってのガイドラインとしての影響力は小さくない。

■高校の英語教育への影響

資格・検定試験ではテーマに沿った英文を書かせる，いわゆる自由英作文も出題されている。この出題形式はマークシート方式のセンター試験では出題できないため，現在では個別試験で出題されている。つまり現状では受験者は個別試験の実施日である２月末までに自由英作文の対策を済ませておけばよいのであるが，共通テスト以降は資格・検定試験の受験時までに自由英作文に対しての対策をしておかなくてはならなくなる。ともすればスピーキングの導入にばかり目が向きがちであるが，ライティングの指導に関しては高校３年生の前期までに自由英作文対策を終えておかなくてはならないというのは，多くの高校にとって指導計画の相当な前倒しを必要とする変化である。

そしてやはり最も大きな影響は今までの大学入試ではほとんど問われてこなかったスピーキングの指導であろう。しかし資格・検定試験の利用は何年も前から話題になっていることでもあり，またアクティブラーニングなどの授業改革が高校現場で進んできているので，実際にはすでにスピーキング対策も考慮に入れた方向で授業の改革が進んでいるところも多い。「授業は英語で行うことを基本とする」と明示された学習指導要領（H.21.3告示）が発表されて以降，多くの高校で授業内容は少しずつ変化してきている。しかし評価に関しては他の３技能のように一斉に試験を行って後で採点するということができないために苦労している教員も多い。今後は外人講師の派遣や少人数授業の拡大などの行政のサポートの拡大が不可欠であろう。高校入試の段階においても，東京都では平成31年度以降のスピーキングテストの実施を計画している。大阪府，福井県では資格・検定試験のスコアを高校入試に利用することがすでに始まっており，今後同様の動きは全国に広がっていくと思われる。高校と大学のそれぞれの入試で４技能型の試験が一般化することで，高校の授業でのスピーキングの指導はさらに重視されるようになるであろう。また高校の授業が資格・検定試験対策を主眼にするような影響を受けるのではないかという懸念も耳にする。入学者選抜における資格・検定試験のウエイトが大きくなればなるほどそのような影響を受ける可能性も出てくるであろう。資格・検定試験が必要以上に重視されないためにも，高いスコアを持った受験生を優遇するなどの措置を取ることで学部・学科の特性に合った学生を確保する試みは，AO や推薦などの総合型選抜・学校推薦型選抜に限り，一般選抜ではスコアを最低限の出願資格として利用することにしてはいかがだろうか。それでも十分英語教育への波及効果が見込め，高校でも大学においても４技能のバランスのとれた英語教育は進行していくと思うのだが。

（はたの　しんいち・東北大学特任教授）

Genius English Communication

Genius English Communication III Revised
高校卒業後のハイレベルな英語運用を見据えて

西川健誠

英語の 4 技能のバランスの取れた涵養を目指しながら，将来国際的に活躍することになる高校生の思索にふさわしい材料を英文で提供するのが，初版以来の *Genius English Communication* シリーズ（以下，*GEC* シリーズ）の特徴です。*Genius English Communication III Revised*（以下，*GEC III*）では，初版発行からわずか 3 年の間とはいえ，小さくない変化のあった内外の状況を反映すべく，本課については 3 つの Lesson を差し替え，1 つの Lesson では取り上げる人物の差し替えを行いました。また Read On! についても 4 つ，差し替えを行っています。以下，今回新しく入った内容を簡単に紹介いたします。

◆生徒の視野を広げる読みごたえのある教材

多文化共生は *GEC* シリーズで一貫して大切にしているテーマのひとつです。Lesson 1 Vancouver Asahi : The Road to Inclusions では，外地に出た日本人が現実に経験した多文化共生までの道のりを取り上げました。バンクーバーの日系移民が創設した野球チームが，白人選手・審判・観客からの差別を受けながらも，日本人ならではの戦法を用いることでアマチュア・リーグにおいて頭角を現していったこと，白人審判の誤審に白人ファンからの抗議も引き起こすような，人種を問わず全ての野球ファンに愛されるチームへと育っていったこと，第二次大戦の勃発に伴いチームは解散を余儀なくされたが，野球が収用所に送られた日系人と他のカナダ人との間の和睦の手段となったことを，平易な文章で追ったものです。本 Lesson での学びは，差別を受ける中でもなお自らの文化中の良きものを保つことで渡った先の人々の尊敬を得るに至った日本人について学びながら，日本人としてのアイデンティティを改めて確認することにつながるでしょう。と同時に，ますます多くの海外出身者を隣人として迎えることになるだろう現在の日本の高校生に，移民として住むことの困難さや共生の作法について，是非とも思いを馳せてもらえればと思います。

科学技術の分野では，認知科学の発展と相まって，AI（Artificial Intelligence）が大きな関心を呼んでいます。2016年 3 月，AI と碁の世界チャンピオンが対局し，世界チャンピオンが敗れるという出来事がありました。この出来事から書き起こし，AI が人類にもたらす正負双方の可能性を論じるのが，Lesson 2 Artificial Intelligence : Is It a Blessing or a Curse? です。より的確な医療診断，自動車の自動運転，といった形で AI への期待が高まる一方，AI が人間の知能に匹敵し得た場合，これまで人間だけができる仕事とされた領域を AI に侵食されないか，そもそも人間の人間らしさをどこに求めればよいのか，についての議論を，極力専門用語を避けた文章で紹介しています。科学技術論として読むこともできますし人間論として読むこともできる文章ですので，文系理系の別を問わず，生徒達には興味を持ってもらえるでしょう。

改訂版の本書が最初に生徒の手に取られるのは 2019年であり，翌年の東京オリンピック・パラリンピックへの機運も大いに高まっているものと予

想されます。Lesson 8では，初版と同様パラリンピックの誕生の経緯を扱いながら，Part 4で，パラリンピックでの活躍が期待されるスポーツ選手として，プロ車いすテニス選手・国枝慎吾氏を取り上げました。同課に呼応するRead On! 8では，「オリンピック・トリヴィア」的に，かつて行われた事がある，しかし今日の時点から見ると笑ってしまうかもしれないような，オリンピック競技を紹介しています。1つ1つが短く，またウィットの利いた文章で書かれているので，肩の力を抜いて読むことができるでしょう。

GEC シリーズ全体の最終課となるLesson 10は，「世界一貧しい大統領」と呼ばれるウルグアイの元大統領ホセ・ムヒカ氏を取り上げました。2012年ブラジル・リオデジャネイロで行われた『国連持続可能な開発会議』の席で行った氏の演説，および訪日時のインタビューの言葉も引きつつ，富や権力からの自由を体現した氏の生き方，また経済第一主義の袋小路に陥ったように見える日本人への氏のメッセージを紹介します。世界に生きる全ての人々，また各人にとり「持続可能」な幸せとはどんなものかを考えさせる，個人・社会双方にとっての「幸福論」であり，*GEC* シリーズ全体の冒頭，*GEC I*, Lesson 1 A Village of One Hundredと対をなすものです。そしてこの「世界一貧しい」大統領が求めるオルタナティヴな生き方への，豊かで強い国のリーダーからの応答として，今回Read On! 10で取り上げたオバマ前米国大統領の広島・平和記念公園におけるスピーチ（抜粋）を読んでみてはいかがでしょうか。人間にとって恩恵とも呪いともなり得る科学の力から思索をはじめ，人間の内にある悪への傾きを指摘し，同時に自らの率いる国が超大国として軍事力を恃んできた，また今もなお恃む現実を認めながら，なお自由・平和といった理念に信を置く意志を，この演説は格調高い英語で表明しています。いずれ世界を率いる地位についてもおかしくない若者に，是非とも読み考えてもらいたい演説です。

今回，レイアウトについても若干改変しました。英語の文章の形式・内容上のまとまりの単位としてのパラグラフについてより生徒が意識できるよう，改訂版では各パラグラフに番号を付したのが，最も大きな改変です。加えて，初版では脚注に示していた新語および成句表現（Expressions）は，全て傍注とし，英文を読む際の目の動きが本文の流れを追うことに集中する一助となるようにしました。これに合わせ，成句表現の例文は，Lessonの最後にまとめて示しております。

◆卒業後も使える英語運用力をめざして

高校3年生ともなれば，多くの生徒の直近の目標は大学入試かと思われます。シリーズ最終巻として *GEC III* もこの点を考慮に入れていますが，今回の改訂にあたっても，初版同様，本書で学んだ生徒達が高校卒業後，入学試験に限らずより高いレベルで能動的に英語を使用していく準備となることを，第一に考えました。能動的に英語を使用するというと，まずは日常的な口頭でのoutputが想像されますが，身近な所ではe-mail等での通信，フォーマルな場面では論文執筆あるいは職場での文書作成という形で，書き言葉でのoutputが求められる場面も存外多いはずです。Comprehensionでは択一式ではない自由回答の形の問題を含み，Communication Activitiesでは *GEC I*・*GEC II* に引き続きConcept Mapを埋めることから出発し150-200 wordsの長さの要約を英語で書く課題を用意しています。さらにExercisesでも，本課の内容をより一般化したテーマの下にエッセーを書くことを求める本書は，入学試験の場面を超えて求められるフォーマルな英語でのoutputの力を鍛えるのに，格好の教材です。*GEC III* での学びが自ずと大学入学のための，また大学入学後の英語を通じた学びの，準備となると確信しております。

（にしかわ　けんせい・神戸市外国語大学教授）

Genius English Communication

Genius English Communication III Revised と *Genius* シリーズの特色

編集部

「コミュニケーション英語Ⅲ」教科書の *Genius English Communication III Revised* は，*Genius* コミュニケーション英語シリーズを締めくくる教科書として，*Genius I, II* で培った力をさらに伸ばし，高校卒業後の進路を見据えながら，英語を「実際に活用する」ことを意識した内容構成としました。*Genius* シリーズ全体の特色も交えながら，今回の改訂のポイントをご紹介します。

◆「世界をより深く考える」視点を身につける教材

Genius I, II, III 全体を貫く考え・ねらいは，生徒が「地球村」の住民のひとりとして，世界全体の課題を自分たちの問題として考える視点を身につけることです。

現代に生きる高校生にとって重要なテーマを選び，そのテーマについてⅠ～Ⅲを通してさまざまな観点から考える教材を配置して，多面的な視点を身につけられるようにしました。Ⅰの最初のレッスンLesson 1　A Village of One Hundredから Ⅲの最後の Lesson 10　The “Poorest” President in the Worldまで，身近な話題から始まって，最後は世界全体を見渡すグローバルな視点を身につけることを目指しています。シリーズ全体で扱った主なテーマは次ページにまとめました。

Genius III 改訂版で新しくなった教材は，Lessonで3つ，Read On!で3つです。それらの詳しい内容や教材選択の観点などについては，編集委員の西川健誠先生の記事（12～13ページ）をご覧ください。

◆さまざまな読み方に対応した紙面レイアウト

4技能を統合した活動を重視している *Genius* シリーズですが，*Genius III* については3年間の高校英語の仕上げとして，「実践的な読む力」を身につける手助けとなるよう紙面構成を変更しました。まず大きな変更としては，判型をB5変型判からB5判正寸に変更し，見開きで2パート分の英文を収めるようにしました。レッスン全体を通して読む速読にも，パートで区切りながらの精読にも，どちらにも対応できる構成です。また，パラグラフ間の関係をつかみながらの読解がしやすいよう，パラグラフ番号を付しました。

内容理解を確認する設問はレッスンの最後にまとめ，リスニングによるTrue or Falseと英問英答の他に，選択式の問題も用意しました。

◆4技能をバランスよく育成する活動の数々

Genius I, II と同様，コンセプト・マップを使った口頭での要約活動，英文サマリーの作成，読んだ内容について話し合うDiscussion，関連したテーマの調べ活動Projectも用意し，4技能をバランスよく育成できる構成となっています。また，*Genius III* にはそれらに加え，レッスンの内容に関連したテーマについて，100～150語のまとまった英文を書くエッセイ・ライティングの課題も用意しています。今後4技能型へ変わっていく大学入試へも，特別な教材を追加することなく，教科書だけで対応できるのが，*Genius* シリーズの大きな強みです。

◆ Genius I, II, III で取り上げた主なテーマと教材

世界情勢

I：L1 A Village of One Hundred（「100人の村」から見た世界）

III：L10 The “Poorest” President in the World（持続可能な社会とは）

科学

I：L6 Willpower and Sleep（睡眠の科学）

II：L8 Emotions Gone Wild（動物の感情）

III：L2 Artificial Intelligence: Is It a Blessing or a Curse?（AIの発展と未来）

III：L7 What Are Stem Cells?（iPS細胞と今後の医療）

日本の文化

I：L2 More Than Just a Piece of Cloth（風呂敷）

II：L5 The World of Miyazawa Kenji Is Our World（宮沢賢治の世界観）

III：L4 Quest for Traditional Colors（染織家・吉岡幸雄）

スポーツ

I：L7 Mother of Women’s Judo（女子柔道の母）

II：L2 *Undokai* in Malawi（運動会を通じた国際交流）

III：L8 Paralympic Games（パラリンピックの歴史）

環境問題

I：L4 Borneo’s Moment of Truth（ボルネオの熱帯雨林）

II：L3 Nature Technology（自然を生かした科学技術）

III：L3 The Island in the Wind（デンマークのエネルギー改革）

平和・国際理解

I：L10 Life in a Jar（ユダヤ人の子どもを救った女性）

II：L4 Ahmed’s Gift of Life（イスラエル－パレスチナ問題）

III：L1 Vancouver Asahi: The Road to Inclusion（カナダの日系移民）

教育・進路

I：L3 I Am Malala（教育の重要性）

II：L9 Justice with Michael Sandel: What’s the Right Thing to Do?（対話による授業）

III：L5 Practical Wisdom: What it Takes to Be Good at Work（仕事に求められる心構え）

世界の課題

I：L8 Water Crisis（水問題）

I：L9 Coffee and Fair Trade（フェアトレード）

III：L9 How to Feed the World in 2050（食糧問題）

Compass English Communication

Compass I, II, III Revised で 対話と笑顔のある授業を

――新学習指導要領を見据えた授業実践に向けて

江原美明

Compass III Revised が完成し，シリーズ全3巻が揃いました。I，II，III 各レベルに応じた英文の量や難易度の調整，題材，言語活動，レイアウト，挿絵・写真，ポストリーディング活動の見直しなど，*Compass* をお使いいただいている先生方の声を取り入れた改訂で，さらに使いやすい教科書へと進化しました。4技能（5領域）の育成をより重視する新学習指導要領を見据え，改訂版 *Compass* に込めた願いと活用のヒントをお伝えしたいと思います。

◆対話と笑顔を促すトピックと挿絵（写真）

対話のある授業には自然に笑顔が溢れます。そして，対話と笑顔のある授業は生徒同士の人間関係づくりや主体的に学ぶ意欲の育成，学習事項の定着に大きな効果があります。*Compass* は幅広い題材を扱いながらも，生徒の日常生活と関連づけやすい題材を精選し，各課，パートに印象的な挿絵やカラー写真を載せています。これらを活用して，See-Think-Wonder（何が見えるか，どう思うか，どんな疑問を思い浮かべるかを聞く活動）や，Think-Pair-Share（質問についてまず1人で考え，次にペアで話し合い，最後に全体でシェアする活動）などを行うことで，生徒が始終下を向いているのではなく，顔を上げて英語を話す機会を増やすことができます。

Compass III Revised では，Personal Space（Unit 2 Lesson 6）に関する題材が新たに加わり，「混み合ったエレベーターの中で人はどう行動するか」といった，日常生活に関連深くしかも人間の心理という普遍的なトピックを扱っています。また，笑いの効用を扱った Laughter is the Best Medicine（Unit 3 Lesson 1）には，思わず微笑んでしまいそうな写真が載っており，授業で *They look so happy! Do you think animals laugh?* などと生徒に話しかけたくなります。

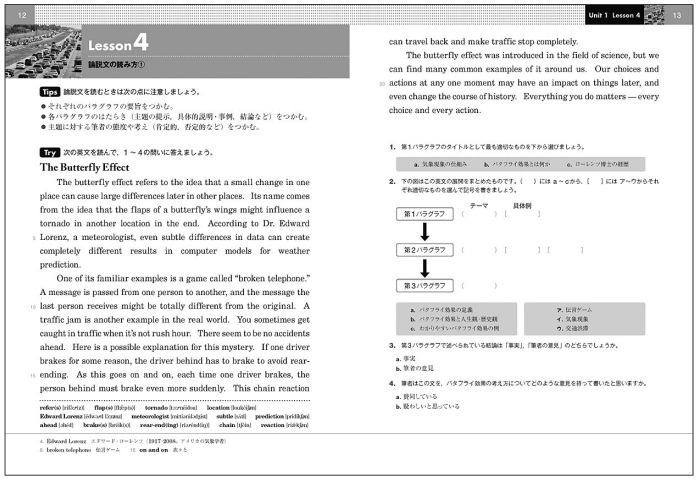
◆英語での授業を行いやすい構成と本文

「授業を英語で行う」ことの大きな効用は，生徒が教室で英語を使う場面を増やし，一字一句日本語に置き換えて考える癖をなくすことにつながるという点です。ただそうは言っても，全く日本語を使わなくてよいのか，生徒に英文の内容をしっかり理解させるには具体的にどうするのか，限られた時間でどう自己表現活動をするのか，など教える側の悩みは尽きません。

Compass Revised では，こうした悩みに応えられるよう，理想論ではなく，先生，生徒の双方にとって取り組みやすく，シンプルでわかりやすい内容確認クイズや言語活動を適切に配列し，英語を使いながらでも無理なく授業が進められるようになっています。例えば，*Compass I, II Revised* では，各パートを見開き構成にし，Answer it! をはじめとした言語活動を本文の右側に配置して，各レッスンの最後には生徒が取り

組みやすいT/Fクイズやイラストを使った文法演習を用意しています。

Compass III Revised では，4技能の能力を高めながら論理的思考力と英文を読み取る力が身につくよう，Unit 1ではリーディング・ストラテジーを，Unit 2ではパラグラフの要点と英文全体の論理構造を，Unit 3では長文を読む力を段階的に身につけられるようになっています。特にUnit 1では，英語による内容理解設問だけでなく日本語による内容整理チャートもあり，英語でのやりとりに加え，生徒に自分の言葉で理解した内容を日本語で説明させたり，日本語のチャートを見ながら英語で概要を話させたりすることなどを通して，和訳に頼らず考えながら英語を使う授業づくりを支援します。


12 Unit 1 Lesson 4 13

Lesson 4
論説文の読み方①

Tips 論説文を読むときは次の点に注意しましょう。
- それぞれのパラグラフの要旨をつかむ。
- 各パラグラフのはたらき（主題の提示，具体的説明・事例，結論など）をつかむ。
- 主題に対する筆者の態度や考え（肯定的，否定的など）をつかむ。

Try 次の英文を読んで，1～4の問いに答えましょう。

The Butterfly Effect

The butterfly effect refers to the idea that a small change in one place can cause large differences later in other places. Its name comes from the idea that the flaps of a butterfly's wings might influence a tornado in another location in the end. According to Dr. Edward Lorenz, a meteorologist, even subtle differences in data can create completely different results in computer models for weather prediction.

One of its familiar examples is a game called "broken telephone." A message is passed from one person to another, and the message the last person receives might be totally different from the original. A traffic jam is another example in the real world. You sometimes get caught in traffic when it's not rush hour. There seem to be no accidents ahead. Here is a possible explanation for this mystery. If one driver brakes for some reason, the driver behind has to brake to avoid rear-ending. As this goes on and on, each time one driver brakes, the person behind must brake even more suddenly. This chain reaction can travel back and make traffic stop completely.

The butterfly effect was introduced in the field of science, but we can find many common examples of it around us. Our choices and actions at any one moment may have an impact on things later, and even change the course of history. Everything you do matters — every choice and every action.

refer(s) [rifə́:r(z)] **flap(s)** [flǽp(s)] **tornado** [tɔ:rnéidou] **location** [loukéiʃən] **Edward Lorenz** [édwərd lɔ́:rənz] **meteorologist** [mì:tiərɑ́lədʒist] **subtle** [sʌ́tl] **prediction** [pridíkʃən] **ahead** [əhéd] **brake(s)** [bréik(s)] **rear-ending** [ríərendiŋ] **chain** [tʃéin] **reaction** [riǽkʃən]

8. Edward Lorenz　エドワード・ローレンツ（1917-2008，アメリカの気象学者）
9. broken telephone　伝言ゲーム　15. **on and on**　延々と

1. 第1パラグラフのタイトルとして最も適切なものを下から選びましょう。
a. 気象現象の仕組み　b. バタフライ効果とは何か　c. ローレンツ博士の経歴

2. 下の図はこの英文の展開をまとめたものです。（　）にはa～cから，［　］にはアーウからそれぞれ適切なものを選んで記号を書きましょう。
テーマ　具体例
第1パラグラフ（　　）［　　］
第2パラグラフ（　　）［　　］［　　］
第3パラグラフ（　　）
a. バタフライ効果の定義
b. バタフライ効果と人生観・歴史観
c. わかりやすいバタフライ効果の例
ア. 伝言ゲーム
イ. 気象現象
ウ. 交通渋滞

3. 第3パラグラフで述べられている結論は「事実」，「筆者の意見」のどちらでしょうか。
a. 事実
b. 筆者の意見

4. 筆者はこの文を，バタフライ効果の考え方についてどのような意見を持って書いたと思いますか。
a. 賛同している
b. 疑わしいと思っている

Compass III Unit 1（Lesson 4）

Compass I, II, III Revised のテキスト本文は，日本での指導経験豊富な2人のネイティブ・スピーカーがリライトや書き下ろしを担当しており，日本人著者と議論を重ねながら作成しています。必要以上に難解な英文は避け，生徒が自己表現のためのお手本として安心して使える活用頻度の高い現代的な英語表現の宝庫となっています。

◆パフォーマンス評価に役立つ言語活動

今後ますます求められる4技能（5領域）の育成に向け，特に話すこと，書くことに関する指導と評価が課題となっています。生徒の進路やニーズに応じて到達目標を設定し，計画的にパフォーマンス評価を実施することは大変な労力を必要としますが，大がかりなものを年に1回実施するより，簡単にできる評価を複数回実施する方が生徒の学習への波及効果が大きいかもしれません。

Compass I, II Revised の各レッスン最後のEnjoy Communicationには，話したり書いたりする簡単なタスクが，*Compass III* のUnit 2の各レッスンにも，Further Practice Cで話す，書くことに関する自己表現活動があります。こうした比較的短時間でできる活動を参考にパフォーマンス評価をするのもひとつの方法です。

◆現場の負担を軽減する補助資料

多忙な校務の中で授業の準備をしなければならない先生方の一助となるよう，*Compass* シリーズには，生徒用『学習ノート』や教師用『情報資料集』をはじめ，多様なデジタル資料が用意されています。既製の教材を活用することで，授業の組み立てを考えたり生徒と過ごしたりする時間を捻出することに少しでも役立てば幸いです。

＊　＊　＊

新学習指導要領では，4技能（5領域）にわたる外国語によるコミュニケーション能力とともに，他者への配慮や主体的に学びに向かう姿勢を養うことが求められます。*Compass Revised* シリーズが，将来に向けて生き生きと学ぼうとする生徒と，生徒たちの学びを温かい心で支援する先生方の役に立つことができれば，著者・編集者一同，これ以上の喜びはありません。

（えはら　よしあき・神奈川県立国際言語文化アカデミア教授）

Compass English Communication

Compass を使った指導と定期テスト・パフォーマンステスト

――新テストを見据えて

村越亮治

2020年度の大学入試では，センター試験に代わる大学入試共通テストの英語で，現行のマークシート方式の問題に加えて民間の4技能試験を受験生に課すことが，国立大学協会（国大協）から正式発表されました。それに先立ち，すでに国立大学だけでなく私立大学でも，外部試験のスコアを外国語の得点としたり，出願資格としたりする選抜方式を設定しているところが増えてきています。これまでも，「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標に基づく指導・評価が求められるなか，4技能を育てる授業やテスト（主としてパフォーマンステスト）のあり方がさまざまな場面で議論されてきました。大学入試の改革を受け，高校現場には，今後ますます4技能の効果的な育成と適切な評価が求められると思います。

そこでここでは，改訂版が出揃った *Compass English Communication I, II, III Revised* を使って，どのような4技能の指導とテスト設計（定期テストおよびパフォーマンステスト）ができるかということについて考えてみたいと思います。

◆「聞くこと」の指導とテスト

Compass I～*III* に共通したリスニングタスクとしては，各レッスンの終わりにある“Review A”があります。これはステートメントを聞いて，すでに読解した教科書英文の内容と合っているかどうかを判断するものですが，読む前に，*Compass II* のコラム“Follow the Compass ① Listening”のページで紹介されているキーワードの聞き取りのような簡単なリスニングタスクに取り組ませれば，すべてのパートでリスニングスキルの訓練が無理なくできるでしょう。*Compass I, II* のテキスト欄外の“Sound”の語の発音や「つながる」「消える」「変わる」といった音変化を含む文を取りだして音読練習をすることも，発音への注意を促すのに効果的な指導です。*Compass III* には，“Further Practice B”として，教科書本文そのものではなくトピックに関連した内容のリスニングタスクが用意されています。これらの教科書教材を使って，日常的にスキルの訓練を積み上げていけば，初めて聞くテキストを使ったリスニングテストを定期テストに出題することができるでしょう。

◆「読むこと」の指導とテスト

Compass I, II では，読解活動として，各パートの段落の要点を確認する“Answer it!”と，1レッスンの内容理解をさまざまな形式のタスクで確認する“Review B（およびC）”が設定されています。*Compass III* では，Unit 1の各レッスンで内容理解に必要なリーディングスキルやストラテジーを確認し，Unit 2以降のタスク（Comprehension）でそれを使ってみるという流れになっています。タスクは英文の要点・概要，論理展開，出来事の順序などを読み取るもので，入試問題の形式を意識したものになっています（Unit 2にはポストリーディングの“Review B”も設定されています）。基本的に，リーディングのテストは，既習テキストによる「暗記テスト」ではなく，初見のテキストを使ってスキルの習得を確認するものであるべきですが，それには，*Compass II* の“Follow the Compass ③ Reading”や *Compass*

III Unit 1および“Column”で提示されているようなリーディングのサブスキル（何を読み取るべきか）やリーディングストラテジー（どう読むべきか）について早いうちから指導することが前提となります。教科書英文で練習し，定期テスト（初見テキスト）で腕試しをさせる，というプロセスで真のリーディングスキルを育てることができるのではないかと思います。

◆「話すこと」の指導とテスト

「話すこと」に関わる活動として，*Compass I, II* には，各パートの文法項目や表現を口頭で使ってみる“Use it!”に加えて，レッスン末の“Enjoy Communication”があります。また *Compass II* の“Follow the Compass ① Speaking”で話す力向上のためのコツを扱っています。また，Teacher's Manual には，レッスンごとに“Enjoy Communication”やトピックに関連したパフォーマンステストの例とその評価方法（ルーブリック）が準備されているので，前後の指導を考えながらそのスピーキングテストを適宜利用すれば，話す力の形成的評価ができるでしょう。*Compass III* では，Unit 2 各レッスン後の“Further Practice C”がスピーキング活動に充てられています。継続的にスピーキングスキルを伸ばすためには，帯活動やプレリーディング／ポストリーディングの活動として日常的に英語を話す場を設定し，言語リソースを蓄積・確認させ，英語の発話に慣れさせることが大切でしょう。当然のことながら，話す力は実際に話させてみないと測ることができないので，指導・練習に基づいたパフォーマンステストを，適切なフィードバックを与えながら，複数回実施することが必要です。

◆「書くこと」の指導とテスト

Compass I, II では“Enjoy Communication”に，*Compass III* では“Further Practice C”に，まとまった自由作文や要約文を書く活動が設定されています。「英語表現Ⅰ・Ⅱ」を併修する場合でも，コミュニケーション英語で数文〜1パラグラフ程度のライティングをポストリーディング活動などで継続的に行うことで，書くことに対する抵抗感がなくなり，より長くまとまった英作文のための基礎力が身につくと思います。“Follow the Compass ④ Writing”（*Compass II*）でも，1パラグラフまでの段階的なライティングを扱っています。書く力もまた，実際に書かせてみないとその測定はできません。*Compass I, II* の Teacher's Manual にあるライティングテスト（評価ルーブリックつき）を活用するなどして，定期テストの一部として，または独立したパフォーマンステストとして，継続的，形成的に書く力の評価をしていくことが，4技能試験の導入に備えてますます重要になってくるでしょう。

◆「語彙・文法」のテスト

技能重視の指導が求められているなか，それを支える言語知識である語彙・文法の適切な指導と評価はやはり不可欠でしょう。*Compass English Communication* のシリーズでは，語彙・文法については一貫して，イラストや例文などにより使用場面を明示して扱っています。定期テストなどでも，会話仕立てにするなど，使われる状況を設定した出題をすることで，テストそのものが，その時限りの測定ツールとしての役割を超えて，習得に寄与するひとつの機会となるでしょう。

＊　＊　＊

よいテストの要素の1つとして「波及効果の高さ」が挙げられます。質のよいテストは，質のよい学習を促します。教科書および周辺教材のねらいや効果を十分に吟味し最大限に活用しながら，4技能をバランスよく伸ばす授業を展開し，診断力が高くさらなる学習につながるテストを実施することが，今あらためて求められていると思います。

（むらこし　りょうじ・
神奈川県立国際言語文化アカデミア講師）

Departure English Expression

『*Departure* 英語表現Ⅰ改訂版』と『ジーニアス総合英語』を連係させた指導

山岡憲史

◆「英語表現」は表現力を伸ばしているか？

「コミュニケーションを支えるための文法」指導が求められる中，「英語表現」の授業はコミュニケーション能力を伸ばすという点においてまだまだ改善の余地があるように思われます。

「英語表現」の授業が文法の学習と結びつくのは必然のことです。授業では，文法規則を教師がテキストや総合参考書を使って解説をしたり，生徒自らに学習させたりして理解させます。続いて例文の音読などでそれを暗記させたり，演習問題を解かせたりするという手順で，その形式に習熟させます。その後は，その文法事項を使った表現活動をさせることが一般的です。

このような Presentation－Practice－Production というプロセスはどれも大切ですが，そうした手順を踏んで丁寧に指導しているつもりでも，生徒たちが文法的に正しい英文を書いたり話したりできるようになることはかなり難しいのが実情です。それを改善するには次の 3 点が肝要と考えます。

まず 1 点目は，個々の文法項目が持つ形式と意味を説明するだけでなく，それがどのような場面でどのような意図や心理を表すために使われるのかという，言語の使用場面と機能をしっかりと理解させることです。生徒が学んだ文法事項を使うべき場面でそれを援用できなかったり間違えたりすることは非常によくあることです。指導においては，文法形式の意味だけでなく，文法の機能を十分熟知させなければなりません。

2 点目として，上のような理解をさせた後に，生徒の個人的あるいは知的な好奇心を刺激する例文を豊富に与えてインプットすることが大切です。イメージが湧く文脈の中で多くの使用例に触れることによって理解可能なインプットを増やし，思考力を鍛え強化することが求められます。学習した内容をさまざまな文脈の中で再確認させながら，十分なイメージを持たせることは，文脈のない例文を無目的に暗記させるよりはるかに効果があるでしょう。

3 点目として，十分なインプットをした後，自らが表現したい内容について書いたり話したりする活動が必要です。表現するテーマを personalize することによって，生徒が表現したいと思った意見や伝えたい体験を話したり書いたりすることができます。想像力を働かせ，自分の考えを表明できるテーマであることが肝要です。

◆『*Departure* 英語表現Ⅰ改訂版』の学習を『ジーニアス総合英語』で深める

『*Departure* 英語表現Ⅰ改訂版』では文法項目を初版より大きく充実させました。しかし，教科書の宿命上，それぞれの例文には簡単な解説を施しているにすぎません。これを補うのが『ジーニアス総合英語』です。この参考書の最大の特徴は，「語法のジーニアス」と定評がある『ジーニアス英和辞典』の方針を受け継ぐ文法の usage の解説にあります。形式の持つ機能の記述が充実しており，いかなる文脈で何を伝えたいかという，コミュニケーションの際に大切なことを理解するのを大いに助けてくれます。

例えば，『*Departure* 英語表現Ⅰ改訂版』では had better に関して「**「～しなさい，さもないと…」という含みを持つ**」という解説がありますが，『ジーニアス総合英語』では，「**ふつう，そうしなければ悪いことが起こるという含みがある。特に you had better ... は，文脈や言い方によっては「警告・脅し」の意味になることがあるので，立場が上の人や年上の人に使うのは避けた方がよい。下降調で発音すると「忠告」になるが，下降上昇調で読むと「警告・脅し」になる。「忠告」を表すには I think you should ... などの表現を使う方が無難である。**」と詳しく書かれています。

また，『ジーニアス総合英語』は，生徒が間違いやすい点にも配慮が行き届いています。例えば，「**I have more books than Tom. を ×I have books more than Tom. のようにしてはいけない／知覚動詞の listen to, watch は受動態にしないのがふつう。**」のような解説です。理解の段階では，ポイントを押さえて，このような箇所を参照させ，コミュニケーションへの方向付けをすることができます。

◆『*Departure* 英語表現Ⅰ改訂版』でインプット・アウトプットする

『*Departure* 英語表現Ⅰ改訂版』は，高校生の知的関心に訴えるテーマを各章に設け，そのテーマに沿った例文が挙げられています。これらは，実際にそのテーマで表現する際の例であり，内容的に同一のカテゴリーに属する文脈の中で豊富なインプットを与え，生産的な場面での使用を促すことができるのです。この教科書の指導資料類（*Teacher's Manual*，*Teacher's Book*）や副教材（『グラマーノート』2種）では文法項目の横に『ジーニアス総合英語』の対応箇所を示すという工夫を行って，『ジーニアス総合英語』との連係を図っていますので，両者を比較して読ませることによって，学んだ基礎がより高度な文脈で使えるという理解へとつなげることができ，生徒の表現力を豊かにすることでしょう。

「総合参考書と教科書が同じ例文であれば暗唱させやすい。」という声もあります。しかし，文脈の伴わない同じ例文をたくさん暗唱させたとしても，インプットは脆弱で頭の中に強固なネットワークはできず，暗唱直後のテスト後しばらくすれば記憶から抜け落ちてしまうでしょう。形式を多様な文脈で確認し，表現したい内容で用いることこそ確かな定着のカギだと思います。

『*Departure* 英語表現Ⅰ改訂版』では，例文で学んだ後，形式定着のための演習があります。これもすべてそのレッスンのテーマに沿った内容であり，その後のリスニング，リーディング活動でも，そのレッスンの文法事項を散りばめています。このように，生徒たちが同じテーマの異なった文脈や使用場面での英文に接しながら，気づきを豊かにすることを目指しています。

さらに，自己表現活動でも，そのレッスンの文法事項を使い，そのレッスンのテーマに沿った生徒の表現意欲を刺激するトピックを設定し，丁寧な手順を踏んで英文を書く・話すというプロセスを重視しています。

＊　＊　＊

『*Departure* 英語表現Ⅰ改訂版』で学んだ文法知識を『ジーニアス総合英語』で深めて，コミュニケーションで使える文法として実感させ，それを糧にして『*Departure* 英語表現Ⅰ改訂版』でさまざまな自己表現活動をさせてほしいと思います。暗唱が必要であれば，この教科書の例文を指定することによって，文法形式だけでなく，その課のテーマに関連した語彙も習得することができます。生徒にとっては単純な英文ではないため負荷が高いでしょうが，理解と知的な関心を植え付ければ，やりがいのある学習となることでしょう。

（やまおか　けんじ・立命館大学教授）

Departure English Expression

「革命」に“Get set! Go!” *Departure* 改訂版

――５領域を学び，表現力を向上させる

吉田健三

◆高大接続改革と英語教育の「革命」

高大接続改革の一環として，英語教育に「革命」が起ころうとしています。現行高等学校学習指導要領は，４技能の総合的な育成が改善の基本方針でしたが，次期版では，小・中・高の一貫した指導を目指し，CEFR（欧州言語共通参照枠）を踏まえ，「聞く」「読む」「話す（やり取り）」「話す（発表）」「書く」の４技能５領域における指標形式の目標を定めて改訂されます。また，2020年度が初年度となる「４技能英語認定試験」の導入は，2006年度大学入試センター試験でのリスニングテスト導入以降に授業でリスニング指導が取り入れられた状況とは変化の次元が全く異なります。

本来外国語教育は４技能の育成が不可欠であり，既にその指導を実践している教員にとっては，今回の改革は「革命」などといった大仰なことでなく，ごく自然な改善でしょうが，そうでない教員にとっては革命的な変化でしょう。

では，『*Departure* 英語表現Ⅰ，Ⅱ改訂版』（以下「ＤⅠ，ＤⅡ」）の魅力と改革への「レディネス」について概観してみましょう。

◆ *Departure* 特有の大きな魅力

ＤⅠ，ＤⅡでは，５領域育成の前提として「コミュニケーションで使える文法」という発想で必須の文法項目とその意味・機能やニュアンスなど必要十分な情報を提供しています。さらに発展した内容の学習については，『ジーニアス英和辞典（第５版）』や『ジーニアス総合英語』と「コラボ」して，学習者が主体的により多くの発見ができる有機的なシステム学習が想定されています。

また，高校生の知的好奇心を刺激するテーマを設定しています。高校生にとって身近な話題，時事問題，科学技術分野，人文学分野，社会科学分野，等々幅広くテーマを選択し，単なる情報の伝達にとどまらず，問題の発見や自分の意見の発表などの productive な活動に発展させています。たとえば，「選挙権と被選挙権」（ＤⅡ９課）では，被選挙権年齢の引き下げの功罪について考えさせるタスクを設定しています。

◆５領域が学べる *Departure*

平成27年度英語力調査（文部科学省）では，CEFR のＡ２レベルに達していない日本の高校生の割合は，「読む」68％，「聞く」74％，「書く」82％，「話す」89％で，４技能の総合的な育成が求められている背景となっています。

ＤⅠ，ＤⅡは現行の学習指導要領に則した教科書ですが，新学習指導要領が目指す４技能５領域の観点を既に織り込んでいます。５領域の能力向上は言語学習において不可欠であるという考えが，編集の核となっているからです。

言語習得には適切な言語使用が必要ですが，English as a Foreign Language の環境では授業での活動が重要であることは言うまでもありません。以下，ＤⅠ，ＤⅡを活用して５領域をいかに育成するか，具体的に解析を試みましょう。

ＤⅠでは，文法事項の学習（Get Ready!! および１課から20課までの１ページ目の Expres-

sions）をベースに基礎的な英語表現能力の育成をねらいとしています。授業は Warm-up で始まります。Have a chat with your partner about ... の指示に従って，ペアで各課のテーマに関する簡単な「話す（やり取り）」活動を行い，スキーマの活性化を図ります。Expressions（各課10文）で文法事項を確認したのち，2ページ目の Get Ready to Express Yourself および Express Yourself で，その文法事項の使用場面を提供し，基礎的な production 活動を可能にしています。

3ページ目では，Get More Informed の Listen Up でテーマに関するダイアローグやモノローグを「聞く」活動に取り組みます。Teacher's Manual（以下 TM）において「聞く」から「話す（やり取り）」活動へつなげる指導案を具体的に示しています。さらに，Read Up で，「読む」から「話す（やり取り）」活動の機会が提供されています。また，4ページ目は Write on Your Own で50語〜100語程度の1パラグラフの英文を「書く」活動から Speak Up の「話す（やり取り）」活動へと有機的に展開されています。

D II の Part 1（各課2ページ），Part 2（各課4ページ）では，1ページ目の「聞く」活動である Warm Up でスキーマの活性化を行い，D I で育成された文法事項の知識を文構造や機能の切り口で再構築し（Part 1：Structures，Part 2：Functions），Ways to Express It でコミュニケーション方略のひとつである「言い換え」の訓練を行います。それらの活動を通して，「書く」「話す」活動の土台づくりを意図しています。2ページ目の Practice で，既習の文構造，機能，言い換え方略の演習を行います。Challenge で，「読む」から「話す（やり取り）」活動へと自然な言語使用を促しています。

Part 2 では，3ページ目の Listen and Think で「聞く」活動を学び，D I 同様，「聞く」から「話す（やり取り）」活動につなげる具体的な指導案を TM で示しています。Keynote Passage, Outlining，さらに4ページ目の Get Ready to Write では，「読む」活動に基づいて「書く」表現活動へ発展する手順を丁寧に示しています。

D I，D II とも，「読む」活動を通して，コミュニケーションに大切な cohesion や coherency に着目するよう工夫されており，「読む」から自分で「書く」活動である Write on Your Own へと言語使用の自然なつながりを工夫しています。Write a Paragraph（D I）や Keynote Passage（D II Part 2）に示された英文は「読む」テキストと同時に，「書く」文章のモデル文となっており，英語が苦手な学習者に対しても取り組みやすいよう十分な配慮がなされています。

基礎的な言語学習に基づいて，D II の Part 3〜5 では，さらに発展的な「話す（やり取り）（発表）」活動が指導できるように編成されています。Part 3 ではブレーンストーミングでアイデアを創出し，マッピングを行った上で，意見のアウトラインを考え，1つまたは複数のパラグラフを「書く」活動へつなげます。続く Part 4 では Part 3 で学習した長めのパラグラフ・ライティングのスキルを基に，Show & Tell，Speech，Presentation といった「話す（発表）」活動を学びます。つぎに，Part 5 で高度な「話す（やり取り）」活動である Mini-Debate in Teams of Four，Debate，Panel Discussion を実際に体験します。Part 3〜5 のいずれにおいても，「話す」活動の準備作業として示された「書く」プロセスの学習は，学習者に対する「足場かけ（scaffolding）」となっています。さらに Example や Model 文の提示は，「読む」活動であるとともに，「書く」活動に対する学習者へのヒントを提供しています。

以上のように，*Departure* は，高校生自らの発展学習を可能にし，知的好奇心を刺激し，言語習得で必要な5領域を有機的に学習できる構成で，将来の「革命」に向けて“Get set! Go!”を志す皆さんを応援する教科書です。

（よしだ　けんぞう・神戸大学特命准教授）

Departure English Expression

『ライティング・サポート・ノート』で英語表現に自信をつける

編集部

2020年度より実施される大学入学共通テスト（以下，新テスト）に向け，民間検定試験の応募・検討などの準備が始まりました。

新テストでは4技能を評価する上に，「知識・技能」だけでなく，「思考力・判断力・表現力」が重視されるため，インプットはもとより，アウトプットする力もしっかりとつける必要があります。

Departure English Expression II Revised の準拠問題集である『ライティング・サポート・ノート』は，新テストに備えて，表現する力が確実につくよう設計されています。その内容をかんたんにご紹介します。

◆ Part 1 の構成

『ライティング・サポート・ノート』は教科書の Part 1 と Part 2 に対応しています。Part 1 は各レッスン2ページ構成で（Standard 編），1ページ目では教科書の例文を使って文法事項と表現の確認を行います。2ページ目では，選択・穴埋め・整序問題やかんたんな英作文でそのレッスンの文法事項の定着を図ります。また，3～5レッスンごとにまとめの演習問題（Advanced 編）を4ページご用意し，過去の大学入試問題を取り上げています。

Part 1 では，単文の組み立てがしっかりとできるようになることを目指します。

◆ Part 2 の構成

続く Part 2 では，文構成に留意して，論理的なパラグラフで自己表現ができるようになることを目標としており，各レッスン，4ページ構成になっています。

1，2ページ目の Standard 編では，Part 1 と同様に，教科書の例文を使って文法事項と表現を押さえ，整序問題や誤文訂正問題，英作文で定着させます。3，4ページ目の Advanced 編では，教科書の例文の言い換えを行います。直訳しようと思うと難しい日本語表現でも，言い回しを工夫することで既知の語彙でも表現できることを学びます。演習問題には過去の大学入試問題も入れているので，受験対策にもなります。

◆全体のねらい

Part 1，2ともに，英語で表現するには難解に思えることでも，持っている語彙の範囲で表現できるスキル，「言い換え」（paraphrasing）の方略能力を習得し，speaking や writing といったアウトプット活動の基礎を構築することを最終目標としています。そのための手助けとして，設問によって，構造・表現・語彙を考える上でのヒントを示しています。中には100語以上書かせる設問もあり，負荷が大きいようにも思えますが，別冊の「解答・解説」で考え方や注意点をていねいに解説しているので，それを踏まえた上で取り組むという方法も考えられるでしょう。

『ライティング・サポート・ノート』で表現したい内容を適切な語彙と文構造で表現できる力を構築し，「英語で表現すること」に自信をつけさせましょう。

「英語表現」の副教材には『ジーニアス総合英語』

――コミュニケーションにつながる英文法を教えるために

編集部

◆『ジーニアス総合英語』の基本方針

英文法を学ぶのは，文法問題を解くためということもあるにせよ，英語でコミュニケーションをとるのにその知識が必要だからでしょう。「英語表現」の授業で教えられる英文法は，当然そのような，コミュニケーションにつながるものであるはずです。副教材『ジーニアス総合英語』も同じ考え方に基づいて編集されました。

例えば，山岡憲史先生が本誌 p.17 で紹介されているように，had better には「忠告」の意味であることを示すだけでなく，「警告・脅し」の意味になることがあると注意を促し（ここまでなら他書の多くにも載っています），だから「I think you should ... などの表現を使う方が無難」というところまで説明しています。また，分詞構文については，その形と意味の説明に一定の紙幅は割いたあと，さらにコミュニケーションの観点から，意味は文脈で決まるため「書く時には使わない方がよいが，読む時には文脈をよく読み取って解釈することが大切」とアドバイスしています。

『ジーニアス総合英語』はこのように，各文法事項について一通りの説明はしていますが，その説明の量にはメリハリをつけていたり，使用上の注意書きを添えていたりします。ともすれば「カタログ」的になりがちな英文法書に（文法事項を使うための）「マニュアル」的な要素を盛り込んでいるとでも言えばよいでしょうか。生徒に「コミュニケーションのための英文法」を身につけさせたいとお考えの先生にぜひ手にとっていただきたいと考えています。

◆講義動画などの付属教材が自習をアシスト

限られた授業時間で英文法を教えたうえでライティングなども指導するのは困難であるとの声をよく聞きます。生徒の自習を前提に授業を組み立てている先生もおられるのではないでしょうか。しかし，例えば総合英語の何ページから何ページまでを家で読んでくるようにといった指示は，特に未習事項の予習の場合，生徒にとって小さくない負担となる可能性があると思われます。

『ジーニアス総合英語』は自習のための強力なアシスト役として講義動画を用意しています（購入特典）。各文法事項のエッセンスをとてもわかりやすく解説した講義は，予習や基本事項のおさらいに最適です。講師は代々木ゼミナールのベテラン講師の福崎伍郎先生。代々木ゼミナールのスタジオで撮り下ろした本格的な講義動画となっています。動画１本は５～10分程度と短いので（各章の時間はトータルで二十数分），空き時間にスマートフォンで気軽に視聴することも，繰り返し何度も視聴することも可能です。

自習といえば，例文の暗記を課題としておられる先生も多いのではないかと思います。『ジーニアス総合英語』の暗唱例文集は携帯しやすい新書サイズです。また，フラッシュカードも用意してあり，記憶や確認に活用することができます。

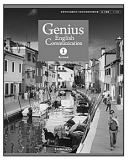
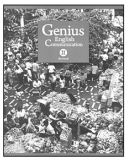
このように，『ジーニアス総合英語』は付属教材により生徒が自学自習しやすくなっていることも，特長のひとつです。詳しくは下記特設サイトをご覧いただければと思います。

https://www.taishukan.co.jp/gsogo_media/

大修館書店の副教材・指導資料のご案内

＊定価＝本体価格＋税

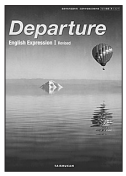
【Genius English Communication】

教科書	副教材	指導資料
 ［コⅠ 338］	学習ノート B5判・112頁＋別冊解答32頁 本体620円	教授用指導資料（3分冊＋CD-ROM 2枚） Teacher's Manual, Teacher's Book（分売可：本体5,000円），情報資料・活動ワークシート集，指導用 CD-ROM，授業用パワーポイントスライド集／本体30,000円
	ワークブック・アドバンスト B5判・88頁＋音声 CD＋別冊解答40頁 本体700円	指導用音声 CD（7枚組＋スクリプトブック） 内容：Lesson 本文（ナチュラルスピード，スラッシュリーディング），新語，サマリー例，Read On! 本文，ほか 本体15,000円
	生徒用音声 CD（2枚組） 内容：Lesson 本文ナチュラルスピード，Lesson 新出単語／本体1,000円	CoNETS 版 指導者用デジタル教科書 （Windows デスクトップ版，DVD-ROM 1枚） 本体50,000円
 ［コⅡ 336］	学習ノート B5判・112頁＋別冊解答32頁 本体620円	教授用指導資料（3分冊＋CD-ROM 2枚） Teacher's Manual, Teacher's Book（分売可：本体5,000円），情報資料・活動ワークシート集，指導用 CD-ROM，授業用パワーポイントスライド集／本体32,000円
	ワークブック・アドバンスト B5判・88頁＋音声 CD＋別冊解答40頁 本体700円	指導用音声 CD（8枚組＋スクリプトブック） 内容：Lesson 本文（ナチュラルスピード，スラッシュリーディング），新語，サマリー例，Read On! 本文，ほか 本体17,000円
	生徒用音声 CD（2枚組） 内容：Lesson 本文ナチュラルスピード，Lesson 新出単語／本体1,000円	CoNETS 版 指導者用デジタル教科書 （Windows デスクトップ版，DVD-ROM 1枚） 本体55,000円
 ［コⅢ 333］	ワークブック B5判・104頁＋別冊解答24頁［予定］ 本体予価700円	教授用指導資料（3分冊＋CD-ROM 3枚［予定］） Teacher's Manual, Teacher's Book（分売可），情報資料集，指導用 CD-ROM，授業用パワーポイントスライド集
	生徒用音声 CD（2枚組［予定］） 内容：Lesson 本文ナチュラルスピード，Lesson 新出単語 本体予価1,000円	指導用音声 CD（7枚組＋スクリプトブック［予定］） 内容［予定］：Lesson 本文（ナチュラルスピード，スラッシュリーディング），新語，Read On! 本文，ほか

【Compass English Communication】

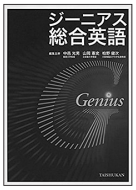
教科書	副教材	指導資料
 ［コⅠ 337］	学習ノート B5判・112頁＋別冊解答32頁 本体700円	教授用指導資料（3分冊＋CD-ROM／DVD） Teacher's Manual, Teacher's Book（分売可：本体5,000円），情報資料集，指導用 CD-ROM，指導用デジタル教材集 DVD／本体30,000円
	生徒用音声 CD（2枚組） 本体1,000円	指導用音声 CD（5枚組＋スクリプトブック） 内容：本文（ナチュラル／スロー，スラッシュリーディング），新語，リスニング問題，英文サマリー／本体15,000円
 ［コⅡ 335］	学習ノート B5判・104頁＋別冊解答32頁 本体700円	教授用指導資料（3分冊＋CD-ROM／DVD） Teacher's Manual, Teacher's Book（分売可：本体5,000円），情報資料集，指導用 CD-ROM，指導用デジタル教材集 DVD／本体32,000円
	生徒用音声 CD（2枚組） 本体1,000円	指導用音声 CD（7枚組＋スクリプトブック） 内容：本文（ナチュラル／スロー，スラッシュリーディング），新語，リスニング問題，英文サマリー／本体17,000円
 ［コⅢ 332］	学習ノート B5判・100頁＋別冊解答32頁［予定］ 本体予価700円	教授用指導資料（3分冊＋CD-ROM／DVD［予定］） Teacher's Manual, Teacher's Book（分売可），情報資料集，指導用 CD-ROM，指導用デジタル教材集 DVD
	生徒用音声 CD（2枚組［予定］） 本体予価1,000円	指導用音声 CD（7枚組＋スクリプトブック［予定］） 内容［予定］：本文（ナチュラル／スロー，スラッシュリーディング），新語，リスニング問題，英文サマリー

【Departure English Expression】

教科書	副教材	指導資料
 ［英Ⅰ 327］	グラマーノート・スタンダード B5判・84頁＋別冊解答56頁 本体620円	教授用指導資料（3分冊＋CD-ROM 2枚＋DVD） Teacher's Manual，Teacher's Book（分売可：本体5,000円），教科書ワークシート，指導用 CD-ROM，指導用デジタル教材集 DVD，大修館 英語テストエディター CD-ROM 本体32,000円
	グラマーノート・ベーシック B5判・80頁＋別冊解答48頁 本体620円	指導用音声 CD（6枚組＋スクリプトブック） 内容：本文（ナチュラルスピード，スロースピード），リスニング問題，ほか 本体15,000円
	生徒用音声 CD（1枚） 本体1,000円	
 ［英Ⅱ 321］	ライティング・サポート・ノート B5判・104頁＋別冊解答72頁 本体700円	教授用指導資料（3分冊＋CD-ROM 2枚） Teacher's Manual，Teacher's Book（分売可：本体5,000円），教科書活動用シート，指導用 CD-ROM，指導用デジタル教材集 CD-ROM 本体32,000円
	生徒用音声 CD（1枚） 本体1,000円	指導用音声 CD（6枚組＋スクリプトブック） 内容：本文（ナチュラルスピード，スロースピード），リスニング問題，ほか 本体17,000円

★新時代の総合英語参考書『ジーニアス総合英語』

大修館書店から新しく誕生した総合英語の決定版『ジーニアス総合英語』は，『ジーニアス英和辞典第5版』，*Departure English Expression* シリーズと連携させれば，さらに充実した学習が可能になります。



ジーニアス総合英語
（オールカラー）
A5判・656頁
本体1,500円

準拠テキストブック	ワークブック
46 Lessons（2色刷） B5判・136頁＋解答解説（PDF にて提供） 本体620円	46 Lessons B5判・96頁＋別冊解答解説書 本体540円
27 Lessons（2色刷） B5判・136頁＋解答解説（PDF にて提供） 本体620円	27 Lessons B5判・88頁＋別冊解答解説書 本体540円
23 Lessons（2色刷） B5判・128頁＋解答解説（PDF にて提供） 本体600円	23 Lessons B5判・88頁＋別冊解答解説書 本体540円

★充実した指導用資料と教材で，英語学習を強力サポート
・大修館英語テストエディター…モデル文の定着を図る自動問題作成用ソフト。
・暗唱例文集…モデル文暗唱用の小冊子。

＊『ジーニアス総合英語』特設サイト（https://www.taishukan.co.jp/gsogo_media/）から以下の特典がご利用いただけます。
・講義動画…代々木ゼミナール講師の福崎伍郎先生による講義動画。
・音声ダウンロード…モデル文の音声。
・モデル文フラッシュカード…モデル文のフラッシュカード。

◎編集主幹　中邑光男（関西大学教授・『ジーニアス英和辞典』編集委員）
山岡憲史（立命館大学教授・*Departure English Expression* 編集委員代表）
柏野健次（大阪樟蔭女子大学名誉教授・『ジーニアス英和辞典』編集委員［語法］）

◎編集委員　加藤治之／富永 幸／福崎伍郎／吉田健三／北野マグダ・レーナ／ほか1名

◎英文校閲　Lance Eccles（『ジーニアス英和辞典』英文校閲者）

英文法、何を重点的に教えるか

大学入試分析を授業に活かす

佐藤誠司　著

四六判・320頁
本体2,300円＋税

［評者］
石﨑陽一

「わかる」「使える」英文法，適任者による再構築の試み

何事も効率化を図るには「選択と集中」が肝要だ。英語を話したり書いたりする力を効率的に身につけるには，発信の即戦力となる文法事項を精選し，その習熟に時間をかける必要がある。この観点から英文法のなかで重点的に教えるべき項目を提案する試みが本書である。

本編は10個の章から成る。時制，助動詞，受動態，仮定法，不定詞，-ing 形と-ed 形，分詞構文，関係詞，接続詞，比較の順に１章ずつ充当し，それぞれの章で会話や作文での使用頻度の高い文法事項を取り上げる。

取り上げられている重点事項の仕分けは，主に過去のセンター試験の分析結果に基づいて行った。これは「競争的試験として他に類を見ない特殊性・公開の下に行われている」と作成部会の述べるセンター試験において，「出題例がほとんど（または全く）ない文法知識は，学ぶ価値が低い」（p. iv）との考えによるものだ。

仕分けの一例を挙げよう。had it not been for という表現がある。これはセンター試験での出題回数も僅少，会話や作文では without で代用すればよく，会話や作文の学習における優先度は低い。そう判断するといった具合である。かくしてアウトプットの観点から覚える価値の高い文法知識が選定され，各章に配置された。

各章は「導入→頻度分析の結果の提示→解説→まとめ」の流れで進む。

解説の項では品詞を基盤とする伝統文法の枠組みを用い，その概念・用語に立脚しつつ，談話文法（情報構造の原則など），機能文法（依頼表現など），認知文法（to のコアイメージなど）といった現代言語学の知見を随時援用することでわかり易さを追求。主要辞書の語法注記や英語母語話者へのアンケート調査結果も適宜参照し，正確で実用的なコメントを付す。

本編には付録が２つ添えられている。【付録１】が教室外での学習方法について述べているのは親切だ。「聞く力」「話す力」の養成には教室での指導を家庭学習で補完させることが特に重要だからである。また，【付録２】が俎上に載せる大学入試における悪問は，心ある作問者にとって最良の反面教師となるだろう。

佐藤氏は『話すためのやさしい英文法』や『英作文のためのやさしい英文法』等のほか，『アトラス総合英語』『試験に出る「英語の語法・文法」大全』という著書ももつ。英語の実用面にも入試面にも明るい著者の発想と記述が随所に光る本書を読めば，英語教育に携わる者は会話や作文の指導に指針と自信を得られるはずだ。すべての英語教師（とその卵）に勧めたい一書である。

（いしざき　よういち・東京都立日比谷高等学校主任教諭・上智大学講師）

英語運用力が伸びる

５ラウンドシステムの英語授業

金谷　憲　監修・著

A5判・200頁
本体1,900円＋税

［評者］
杉本義美

ラウンド制指導の本質を考える

この書籍は，横浜市立南高等学校附属中学校で編み出された英語指導システム，５ラウンドシステムの英語授業の実践及びその効果をまとめたものである。

この書籍の書評を書くにあたって，ラウンド制という指導法は何かということをまず定義しておきたい。教科書を繰り返し活用するために，まず多様な listening, reading 活動を通じて内容理解活動を行い，音読練習を通じて英語の内在化を促進し，教科書教材の output 活動（この実践ではリテリング）を基盤にして，speaking, writing 活動を行う。この一連の活動を通して，生徒の英語で表現する能力を高めることを目指す指導法である。つまり教科書を使って，４技能を統合して教える指導法といえる。この指導法はまさに今，日本の中・高の英語指導で求められるものである。

編者の金谷氏は，この５ラウンドシステムにおける「スパイラルな」指導，漆塗りの教授方法を真っ向からとらえて実践している点と，個人ではなく，学校単位で実施している点を高く評価している。試行錯誤の連続の中で作り上げられたシステムであるが，本書にも何度も述べられているよう

に，第二言語習得の認知プロセスを基盤に置き，生徒の授業での反応・様子や，英語学習へ向かう態度に合わせて，このシステムが開発されたことがとても素晴らしい。

評者たちも４技能を統合化するラウンド制に基づく教科書の活用を現場に提唱している。だが，一番の問題は，その学校現場で，生徒の状況や英語の習熟レベルに合わせて，教科書の教材をどう扱うのか（教材の改編も含む）である。指導する教員の資質が大きく問われるのである。だからこそ，１人の教員ではなく，英語科教員全員が協力して，ラウンド制に取り組むことを常に提案している。

このシステムは，教科書を年間通じて４～５回取り扱うので，どの学校でも実施できるとは言い難い。だが，本書の最後に他校の例で工夫されている例（２単元ごとのラウンド制）も紹介されており，英語教員には大いに参考になる。

ラウンド制の詳細な内容も素晴らしいが，何よりも授業の最初の15分間に行う継続した言語活動の取組とそこでの small talk によるインタラクションが非常に効果的である。期間をおいて４～５回教科書教材を扱うインターバル学習と様々な表現を取り扱う15分間のスパイラルな活動がうまく連動しているという印象を受ける。

output における正確さや，文法に関する定着が心配ということが本書で触れられているが，output 時における言語活動の工夫，例えば dictogloss や summary writing も取り入れれば，解消される可能性があろう。

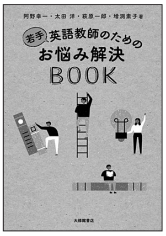
（すぎもと　よしみ・京都外国語大学教授）

若手英語教師のためのお悩み解決 BOOK

阿野幸一・太田　洋・萩原一郎・増渕素子　著

A5判・176頁
本体1,500円＋税

［評者］
白井龍馬



より良い英語教師として働き続けるための実践知

本書は新人教員のＡとＢが抱える悩みに阿野・太田・萩原・増渕各先生が助言を与える対談形式だ。扱う「悩み」は「授業について」「人間関係について」「教師としての自信について」の３つに大別できる。「授業について」のアドバイスは，非常に細かなものから授業全体をどう構成していくかについてまで多岐にわたる。例えば第10章「入試対策」では，単調になりがちな問題演習に動きをつけて活動に結びつける技法を紹介する。「リード＆アンダーライン」と名付けられた手法は図説付きで丁寧に説明されている。次回の授業ですぐに試せるよう工夫されているのだ。第８章「バランスよく授業に取り入れたい言語活動」では，講義型の授業から脱却できない新人Ｂの悩みから，「活動を中心に授業をどう組み立てるか」を扱う。本章ではリテリング中心の授業デザイン構築方法が紹介されているが，「授業の backward デザイン」という考え方は，あらゆる活動中心授業の構成を考える際に役立つ。さらに「活動あって学びなし」の状態に陥らないために教師が留意すべき点まで言及されており，実践的である。教育現場をよく知る先生方によって書かれたからこそ，現場で役立つ細かな工夫にまで手が届いている。

生徒や同僚との「人間関係について」の悩みを扱う章もある。第５章「１学期を振り返る視点」では，授業が成立しない際の生徒との関係構築の方法を扱う。その際に萩原先生が実際に用いたワークシートも掲載されており，問題解決のためにとるべき行動が明確に示される。また第６章「夏休み明けのスタートでひと工夫」等では，同僚教員との指導方針の刷り合わせについて書かれている。英語科教員の間では指導法の対立が珍しくなく，この問題は深刻だ。これを認識する著者の先生方は，賢く折り合いをつける方法を随所で教える。

「教師としての自信について」の悩みを扱う場合，著者たちはとても優しく励ましてくれる。コラム「Coffee Break」は，温かい応援の言葉で溢れている。「悩む自分を先生方が支えてくれている」と感じられ，辛い時にも「もう少し頑張ってみよう」と思わされる。また時に失敗談を織り交ぜ，教師を長く続けていくための姿勢を伝える。これを読むと少し気が楽になり，「教師としてやっていけるかも」と思うことができるのではないか。

以上の通り，本書には経験豊富な先生方が現場で獲得してきた「実践知」が凝縮されている。若手の悩みが経験不足に起因すると考えるならば，この「実践知」こそがまさに処方箋となりうる。よって本書は，悩みを抱える全ての若手英語科教員の必携書である。

（しらい　たつま・横浜女学院中学校高等学校英語科主任）

大修館書店の本

◆高校入学から卒業まで使える 基礎からわかる英和辞典
ベーシックジーニアス英和辞典　第２版
原川博善・畠山利一＝編集主幹
（B6変型判・1888頁・上製・函入・本体2,700円＋税）

◆「ジーニアス」から生まれた総合英語の決定版！
ジーニアス総合英語
中邑光男・山岡憲史・柏野健次＝編集主幹
（A5判・656頁・本体1,500円＋税）

◆英単語をイメージでとらえる「一語一絵」の辞典
［図解］英単語イメージ辞典
政村秀實＝著　Paulus Pimomo＝英文校閲
（B6判・738頁・本体3,200円＋税）

◆英語の知識を“広げる”“深める”情報が満載！
社会人のための英語の世界ハンドブック
酒井志延・朝尾幸次郎・小林めぐみ＝編
（B5判・196頁・本体2,200円＋税）

◆あの「小さな家」の物語は、ここから始まった――
大草原のローラ物語
――パイオニア・ガール［解説・注釈つき］
ローラ・インガルス・ワイルダー＝著　パメラ・スミス・ヒル＝解説・注釈　谷口由美子＝訳
（B5変型判・442頁・本体5,800円＋税）

お知らせ

小社英語教科書についてのご質問，ご感想などを小誌編集部宛にお寄せください。「G.C.D. 教科書 Question Box」で随時ご紹介・ご回答してまいります。

また，小社教科書を使った授業の紹介などのご投稿（郵送のみ）をお待ちしております。（採否のご連絡は致しておりません。また，原稿はお返ししません。）

なお，小社ホームページには小社教科書の内容をご案内しているサイトがございます。ここでは，英語の先生方に役立つ様々な情報も提供しております。

https://www.taishukan.co.jp/gcdroom/

営業便り

▶昨年，満を持して小社副教材『ジーニアス総合英語』が産声を上げました。宣伝にあたり，久々に自身の英語体験を思い返してみました。私は大学１年生の時に短期間ではありますがアメリカに留学した経験があります。生まれ育った茨城県を初めて飛び出し，異なる言語や文化の壁にぶつかるたびに心が何度も折れましたが，自身がこれまでいかに狭い世界で生きてきたかを思い知る衝撃的な経験となりました。▶「The greatest teacher, failure is.（失敗は最大の師である）」――スターウォーズに出てくるマスター・ヨーダの言葉です。入社４年目となる今春，私にもとうとう後輩社員ができます。喜びとともに日々焦りを感じておりますが，これからは自分のことだけでなく，「経験」を次に繋ぐことを意識しながら，今まで以上に業務に取り組みたい考えです。▶大修館書店は今年で創立百周年を迎えます。弊社がここまで歩んで来ることができましたのも，ひとえに全国の先生方のお力添えの賜物と心より感謝しております。今後とも引き続きご指導ご鞭撻を賜りますよう，何卒宜しくお願い申し上げます。

（東京支店　寺門由花）

編集後記

▶度重なる嵐が見事に春を引き寄せた年度末，「コミュニケーション英語Ⅲ」改訂版のご採用見本が完成し，改訂版教科書３学年分が出揃います。真新しい教科書はそれだけでわくわくするもの。全国の教室にお届けできる日が楽しみです。３年生では特に，高校英語の総仕上げとして，卒業後の進路や将来の社会状況を見据えた学びが求められるかと思います。１人ひとりの生徒さんにとって英語が世界への窓であり続けるようにと願いを込めて作られた教科書を，ぜひお手に取っていただけますと幸いです。▶小学校英語や大学入試改革などの動きが具体化し，高校の新学習指導要領も発表されたこの時期，英語教育の今後に思いを馳せずにはいられません。制度の変更に右往左往するのではなく，それが学び手にどんな変化をもたらすのか，そして彼らがどんな社会を新たに創造していくのかを，希望をもって見つめていきたいと思います。（卯）

Genius·Compass·Departure
英語通信

第61号
2018年４月１日発行
（年２回発行）

編集人：「G.C.D.英語通信」編集部
発行人：鈴木一行
発行所：株式会社　大修館書店
〒113-8541　東京都文京区湯島２-１-１
電話（03）3868-2292（編集部）／（03）3868-2651（販売部）
［出版情報URL］https://www.taishukan.co.jp　［振替］00190-7-40504
印刷・製本：文唱堂印刷株式会社

Ⓡ本誌のコピー，スキャン，デジタル化等の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。本誌を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することは，たとえ個人や家庭内での利用であっても著作権法上認められておりません。